

研究課題名	橈骨遠位端骨折に対する角度固定型掌側ロッキングプレートを用いた観血的治療の成績に受傷から手術までの待機期間が与える影響の検討
研究機関名	武蔵野赤十字病院 整形外科
研究責任者	所属 整形外科 氏名 木場 健、小久保 吉恭
研究期間	(西暦) 武蔵野赤十字病院臨床研究倫理審査委員会承認日～2021年3月
研究の意義・目的	<p>橈骨遠位端骨折は4大脆弱性骨折の1つであり活動度の低い高齢者に起こりやすいだけでなく、活動性の高い壮年期にも発生頻度が高い。すなわち全世代に起こりうる骨折です。</p> <p>日本整形外科学会からもガイドラインが発行され治療方針の確率された骨折の一つであると言えます。</p> <p>しかしながら適切な手術時期は「早期手術が望ましい」と「待機手術であっても成績は変わらない」とするものに分かれ、見解は一致していません。</p> <p>そこで当院での過去の橈骨遠位端骨折の受傷から手術までの日数と合併症の有無、手術時間、出血量、骨折の転位の整復量などの関係性を検討する予定です。</p>
研究の方法 (対象期間含む)	2014年7月～2018年12月に当院で橈骨遠位端骨折に対して角度固定掌側ロッキング掌側ロッキングプレートを用いて手術を行われた方
<p>①試料・情報の利用目的及び利用方法 (匿名加工する場合や他機関へ提供される場合はその方法含む)</p> <p>②利用し、又は提供する試料・情報の項目</p> <p>③利用する者の範囲</p> <p>④試料・情報の管理について責任を有する者の氏名又は名称</p>	<p>①②この研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に則り、倫理委員会の承認のうえ実施されます。これまでの診療録より、年齢、性別、骨折の形態、喫煙の有無、受傷から手術までの待機期間、手術時間、術中出血量、術後合併症の有無、画像所見のデータを収集して行う研究です。</p> <p>③当院研究事務局所属者 山崎隆司、小久保吉恭、原慶宏、浅井秀明、望月義人、木場健、佐藤雄亮、中里啓宇、江夏元揚、八木喬、村沢茂、伊藤悠祐、浅沼雄貴、下川雄生</p> <p>④武蔵野赤十字病院 整形外科 木場 健、小久保 吉恭</p>
問合せ先	<p>当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 整形外科 氏名 木場 健、小久保 吉恭</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525</p>